

## 1. 目的

近年、少子高齢化や都市化の進展に伴い、人口構造や家族形態が大きく変容し、単身・高齢者世帯の増加や地域コミュニティの希薄化など、さまざまな課題に直面しています。

こうした中、各自治体は貴重な地域資源である大学などの教育機関と連携して、地域社会の課題解決にむけた取組みを行うことが一層重要視されています。

世田谷区は、専門知識に優れた多くの大学と若い力である学生に恵まれています。こうした世田谷区の地域特性を最大限に活かし、区民・事業者・行政と知の拠点である区内大学が相互に連携することにより、まちづくりや産業、福祉、教育など、幅広い分野において、新たな視点・発想に基づく地域課題への取組みが期待できます。

一方、各大学は、文部科学省が実施する「地（知）の拠点整備事業（大学 COC 事業）」に代表されるように、自治体等と連携して教育・研究・社会貢献を通じて地域コミュニティの中核的存在として大学を位置づけ、その機能強化を図ることを目指しています。

本大会は、世田谷区内在学の大学生が考える新鮮で具体的な提案が、区の様々な地域資源と特徴を活かした地域活性化や今後の新たな連携等のきっかけとなることを期待して開催しました。

## 2. 実施体制

【主催】世田谷区、せたがや自治政策研究所\*

【後援】東京商工会議所世田谷支部、世田谷区商店街連合会

公益社団法人世田谷工業振興協会、公益財団法人世田谷区産業振興公社

※せたがや自治政策研究所は、世田谷区が設置した自治体シンクタンクで、政策研究・調査課が運営しています。

## 3. 提案内容

以下の①から③のうち、いずれか1つを選択し、選択したテーマに基づき各々の調査方法により地域の現状把握・課題抽出等の研究を行い、提案書を作成していただきます。

- ①大学と地域と行政の連携促進に関する提案
- ②区内外に向けて世田谷の魅力を発信すること（city sales）で、地域活性化を図る提案
- ③世田谷区の産業振興に関する提案

※提案書は、A4 用紙 10 枚以内（図表、脚注、参照文献を含む）とし、別に A4 用紙 1 枚の要旨（提案内容を簡潔にまとめたもの）を添付します。また、各チームが表紙を作成したい場合は枚数制限には含まないものとします。

#### 4. 参加校一覧（参加エントリー順） 8大学21チーム

- ・ 国士舘大学 FT アントレゼミナール 大枝チーム
- ・ 産業能率大学 岩崎暁ゼミ 山口チーム
- ・ 駒澤大学 坪井ゼミ 片岡チーム
- ・ 駒澤大学 番場ゼミ 大塚チーム
- ・ 国士舘大学 FT アントレ・ゼミ 水間チーム
- ・ 日本体育大学 スポーツ経営管理学（スポーツマネジメント）ゼミ 杉村チーム
- ・ 日本大学 後藤範章研究室 鈴木チーム
- ・ 産業能率大学 兒玉ゼミ 宮野チーム
- ・ 駒澤大学 番場ゼミ 赤尾チーム
- ・ 駒澤大学 松本ゼミ 田嶋チーム
- ・ 国士舘大学 FT アントレゼミ 小島チーム
- ・ 産業能率大学 中村知子ゼミ 水井チーム
- ・ 東京都市大学 環境プランニング研究室 佐藤チーム
- ・ 産業能率大学 田中彰夫ゼミ 高橋チーム
- ・ 産業能率大学 田中彰夫ゼミ 小山チーム
- ・ 産業能率大学 田中彰夫ゼミ 渡辺チーム
- ・ 昭和女子大学 鶴田佳子研究室 飯塚チーム
- ・ 成城大学 境新一ゼミナール 清水チーム
- ・ 東京都市大学 空間生成研究室+山藤研究室 大沼チーム
- ・ 成城大学 神田範明ゼミ・内田真人ゼミ 矢島チーム
- ・ 駒澤大学 青木ゼミ 西村チーム

#### 5. 審査

##### （1）審査委員（順不同・敬称略）

	氏名	所属・役職
委員長	森岡 清志	せたがや自治政策研究所長
委員	保坂 展人	世田谷区長
	板谷 雅光	世田谷区 政策経営部長
	内田 政夫	世田谷区 産業政策部長
	宇田川裕司	東京商工会議所世田谷支部 事務局長
	本杉 香	世田谷区商店街連合会 副会長
	安藤 敏次	世田谷区商店街連合会 副会長

##### （2）審査基準

以下の4つの審査項目について5点満点で採点を行い、評価に占める割合により各チーム100点満点とします。その後、審査委員による合議により最終順位を決定します。

◆論理の整合性（評価に占める割合 3 割）

- ・現状把握、課題抽出、目指すまちの姿、事業の目的、効果等の間に整合性がある。
- ・現状把握の方法及びその解釈が適当であり、地域性に関する言及がなされている。
- ・現状把握、課題抽出、目指すまちの姿（目標）の間に整合性があり、説得力がある。
- ・目指すまちの姿（目標）に対して、提案された事業の目的が合致している。
- ・提案された計画や事業の（目的に対する）効果が見込まれる。

◆新規性・独自性（評価に占める割合 3 割）

- ・分析の方法等に創意工夫が見られる。
- ・目指すまちの姿（目標）がユニークである。
- ・事業の目的に新しい視点が盛り込まれている。
- ・提案された計画や事業に創意工夫が見られ、独創的である。

◆計画・事業の実行性（評価に占める割合 2 割）

- ・提案された計画・事業に実行可能性の視座が含まれている。（ここでの実行性とは、直ぐにできるという意味ではない。1年では無理でも数年後なら可能という提案も評価する。）
- ・計画・事業の実現までのステップが示されている。
- ・計画・事業と既存の計画や法規制との関係に言及されている。

◆プレゼンテーション・提案書等（評価に占める割合 2 割）

- ・提案書が指定された要件を満たしており、読みやすいような工夫がみられる。
- ・提案書の内容が、テーマと合致している。
- ・プレゼンテーションが指定された要件を満たしており、訴える力がある。
- ・審査委員からの質問に的確に答えることができる。

(3) 審査方法

- 一次審査：応募が多数であった場合は、提案書による書類選考を行います。審査基準の各項目について 5 点満点で採点を行い、本大会でプレゼンテーションを行うチームを選出します。
- 二次審査：大会当日、会場にてプレゼンテーションによる審査を行います。審査基準の各項目について 5 点満点で採点を行い、合議により優秀賞、入賞チームを決定します。

## 6. 実施スケジュール

平成 26 年 4 月 25 日 (金)	参加校事業説明会 (北沢タウンホール)
<b>【内容】</b>	
○大会実施趣旨及び実施方法等について説明	
○世田谷区の現状について説明	
○質疑応答	
<b>【来場人数】</b>	
59 名 (参加学生、教員等)	
平成 26 年 5 月 23 日 (金)	参加チーム エントリー締切り
<b>【参加チーム】</b>	
8 大学 21 チーム	
平成 26 年 6 月 20 日 (金)	調査概要書、取材希望先 提出締切り
平成 26 年 4 月 25 日 (金)	
～	
平成 26 年 9 月 19 日 (金)	調査期間
平成 26 年 9 月 19 日 (金)	中間進捗状況の確認
平成 26 年 10 月 17 日 (金)	提案書提出締切り
平成 26 年 11 月 6 日 (金)	一次審査 (8 チーム選出)
平成 26 年 12 月 11 日 (木)	プレゼン大会 (成城ホール)
<b>【内容】</b>	
○プレゼンテーション	
○展示	
○表彰式	
<b>【来場人数】</b>	
152 名 (参加チーム (学生・教員)、庁内職員、区民等)	

## 7. プレゼン実施チーム一覧（参加エントリー順）

- ・産業能率大学 岩崎暁ゼミ 山口チーム
- ・駒澤大学 坪井ゼミ 片岡チーム
- ・日本体育大学 スポーツ経営管理学（スポーツマネジメント）ゼミ 杉村チーム
- ・日本大学 後藤範章研究室 鈴木チーム
- ・産業能率大学 中村知子ゼミ 水井チーム
- ・昭和女子大学 鶴田佳子研究室 飯塚チーム
- ・成城大学 境新一ゼミナール 清水チーム
- ・成城大学 神田範明ゼミ・内田真人ゼミ 矢島チーム

## 8. 各賞（参加エントリー順）

### 【優秀賞（2チーム）】

- 駒澤大学 坪井ゼミ 片岡チーム

「ヒューマンライブラリーによる多様性に寛容なまちづくりプラン」

- 成城大学 神田範明ゼミ・内田真人ゼミ 矢島チーム

「世田谷区における農業活性化を目指す「ベジマーケット」」

### 【入賞（3チーム）】

- 産業能率大学 岩崎暁ゼミ 山口チーム

「一人暮らし学生の食を応援する事業『セタガヤ母さん』プロジェクト」

- 日本大学 後藤範章研究室 鈴木チーム

「“世田谷の市民・住民団体—ビジュアライゼーションによる公共財化—”」

- 産業能率大学 中村知子ゼミ 水井チーム

「笑顔になれる二子玉川商店街、楽しく歩ける帰り道、子供との散歩道」

## 9. 記録写真

(1) 参加校事業説明会 (平成 26 年 4 月 25 日 (金) 北沢タウンホール)



事務局職員による説明



関係所管 (商業課) からの説明



参加者の様子

(2) プレゼン大会 (平成 26 年 12 月 11 日 (木) 成城ホール)



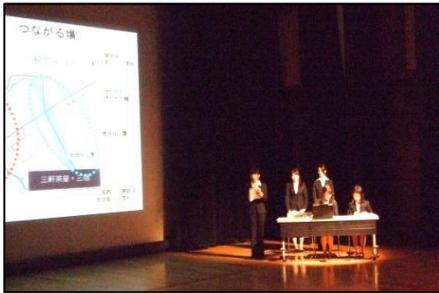
会場



開会挨拶



参加チームによる展示



プレゼンテーション



表彰式

